

開示フレームワーク

1. 概要

- 米国財務会計基準審議会（FASB）及び欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）は、2012年7月12日にそれぞれ開示フレームワークのディスカッション・ペーパー（以下DP）を公表している。それぞれのコメント期限は以下の通り。

FASB： 2012年11月16日（質問 22項目）

EFRAG： 2012年12月31日（質問 15項目）

- 両スタッフは協力してプロジェクトを進めており、目的・取り扱うテーマは共通しているが、それぞれのテーマに対するアプローチは異なっている。

2. 問題の所在 / 開示フレームワークの目的

- 近年、以下の理由により、財務諸表注記の有用性が低下していると言われている。
 - ・ 一貫性のない財務諸表注記の開発
 - ・ 開示を省略することによるリスクを回避した結果、有用性の低い情報の開示も行われ情報過多な状況
- こうした状況に対応し、財務諸表の利用者が意思決定を行う際に有用な報告企業の情報を提供するという財務報告の目的を達成するため、財務諸表注記の有効性の改善を図る。

3. FASB/EFRAG 共通した DP の特徴

- FASB/EFRAG とも、開示の分量の削減を直接的な目的としていないが、不要な開示の廃止により有用性が高まると認識している。
- FASB/EFRAG とも、議論の対象を財務諸表注記に限定する。
- FASB/EFRAG とも、下記領域における改善の可能性を論じている。
 1. 基準設定主体の意思決定プロセス
 2. 報告企業における開示の選択
 3. 開示の構成及び様式
- それぞれの詳細については参考資料参照。

4. 今後のスケジュール（予定）

日程	概要
H24.10/18 委員会	➤ コメント骨子の提案（FASB/EFRAG 同時に議論を行う）
H24.11/6 委員会	➤ コメントの確定（FASB/EFRAG 同時に議論を行う）

以 上